

第1回小松島市中学校防災会議【報告】

1 日 時 令和6年9月30日（月）15：00～16：50

2 場 所 小松島中学校 視聴覚室

3 参加者 市内中学校・県立学校（希望校）・小学校（希望校）
市危機管理部危機管理政策課・市消防本部消防課・小松島警察署警備課
小松島市自主防災連合会・各中学校生徒代表
徳島大学環境防災センター・協力者（東日本大震災語り部 宮本 萌さん他）

4 参加者感想

＜各関係機関の南海トラフ地震への取り組み紹介・東日本大震災語り部 宮本 萌さんによるお話しの感想＞

（関係機関等）

○学校の授業時間中に被災した際の、リアルな状況が伺えて参考になった（親と再開できた、自宅に帰れた様子など）。多くの校舎は RC 造なので、緊急・一時避難場所としての安全面は十分ではあるが、そこに1～2日間程度泊まれるだけの備えがあることが重要であると感じた。最上階の空き教室等を活用し、児童・生徒用の備蓄と避難者用の備蓄を学校と地域で共同管理できるような体制があると良いと感じた。

○宮本さんのお話は、被災直後の現状がいかに厳しいものか非常によくわかり、中学生の皆さんにも地震・津波災害が実感としてわかる、いいお話だったと思います。宮本さんご本人もまだまだ伝えたいことはあると思いますので、テーマを絞ってまた何回かお話をしていただいたら良いのでは、と思います。

○他機関等と情報の共有を図れたことは、大変有意義であったと感じた。また、宮本さんの講演ではリアルな体験をお聞きすることができて、自助による備えの重要性を改めて認識できた。

○他機関の取り組みを聞く機会にはめったにないので、とても参考となり良い刺激になりました。「明日は我が身」と言う中で、宮本さんの話は他人事には思えず、ありのままの風景や体験をお話ししてくださったので、災害の恐ろしさがとても伝わりました。

○東日本大震災について警察や行政側の体験談を聞く事はありませんでしたが、実際に被災した地域住民側の体験談を聞いたのは初めてでした。地域住民目線で不安に思ったこと、困ったこと等お話しいただき大変参考になりました。

（学校関係）

○宮本さんのお話の中で、特に職員室の写真が印象に残った。外から見る瓦礫などの写真は数多く報道されていたりして見る機会があるが、内側からの写真はなかなか出会えず、衝撃的であり、自校の場合と重ね合わせてみる事ができた。あらゆることを想定しておかなければならないと感じた。

○警察や消防の話を書くことができたのはよかった。宮本さんの話も正直な生の声で興味深かった。

○宮本さんからは、貴重なお話を聞かせていただき大変勉強になりました。実際の東日本大震災の被害状況、過酷な避難生活の様子など、体験された方にしかわからない苦労を直接伺えて良かったです。避難生活は想像以上に過酷な状況になるということが本当によく分かりました。また、避難所運営についての課題等もお話の中からたくさん見えてきました。各関係機関の方々とも直接お話ができ、各関係機関とのネットワーク構築の重要性はもちろん、地域の住民、自主防災組織の方々との繋がり大切さを強く感じました。まず、実践できそうなことから、取り組んでいこうと考えています。

○実際に震災を体験した話には重みがあり、宮本さんの話に引き込まれた。南海トラフ巨大地震が発生したら、どうしたらよいのか考えながら聞いたが、想像以上であることを実感した。備えが大切であることが分かった。

○各関係機関の方々からのお話は、とても有意義であったと思います。実際に起きたときにしかわからない事なので、今回話したことで違う動きになるかもしれないが、基本的な活動については理解することは、大いにありがたかった。宮本さんの話は、やはり体験者なので、言葉の重みが違うと感じた。実際、明かりや暖がとれない中で被災したときに、どんな状況なのだろうとか、今現在自分が想定している事は、全く通用しないなど思われることがありました。機会があれば、まず本校職員・児童にも話を聞いてほしいと思っています

○各関係機関の取り組みについて、小松島市役所の取り組みの中で特に印象に残ったのは、津波対策施設の建設やハザードマップの更新です。これらは、市民の命を守るために欠かせないもので、災害が発生する前にどれだけ準備できるかが重要だと改めて感じました。ハザードマップの更新によって、常に最新の避難情報を把握できる態勢を整えることが、地域の防災力向上につながると感じます。宮本さんの話を聞いて、自然災害がもたらす影響の大きさを改めて実感しました。津波が黒い塊で押し寄せる写真や話を聞いて、想像するだけで恐ろしいと思いました。震災の恐ろしさやその後の生活の厳しさ、そして人々の強さを改めて認識しました。今後の災害に対する備えや地域で連携することの重要性を感じました。このような貴重な話を聞いてより防災意識が高めることができました。宮本さんありがとうございました。

○各関係機関の災害発災後の対応を理解することができましたが、限られた時間だったので疑問を解決できない部分もありました。最も興味深かったのは小松島市危機管理部の取り組みについてでした。ハザードマップの更新とその内容の周知を継続していくことを欠かせないと思います。新たなハザードマップを所属校でも活用していきたいと感じました。

○全ての話に引きつけられました。今だから笑顔で話せるのでしょうか。その過程を想像すると…。中でも、「教室の机は全て片方にザーっと動いてしまい…」と聞いたときに、一次避難で机の下に入ることはできるのだろうか心配になりました。

○地震が来た数時間だけでなく、その後の何日、何年もの生活こそが大変だと改めて実感した。しかし、準備できることもたくさんあるので、しっかりと考え、実行していきたい。

○実際に災害を体験された方のお話は、聞く側として現実味があり、一言に重みがあります。しかし、現実的に考えれば考えるほど、さまざまなことが想定され、どうすれば良

いのか整理がつかなくなります。それが焦りとなって結局手がつけられない状態になり、諦めであったり、十分な準備もなく、「その時々での判断」などと、安易な考えに陥ってしまうのではと心配しています。基本的には防災計画を十分に把握した上で、次の段階として、臨機応変な動きを考えておく必要があると思います。

○すみません。途中の参加となったため聞くことができていません。

○想定外と言うキーワードをよく耳にするが、その具体的な内容を聞くことができた。学校での避難中の生活実態、家族との連絡、再会方法等、報道等では知り得ないことを知ることができた

（生徒）

○宮本さんの話を聞くまで、あまり自分事と捉えることができませんでした。しかし、話を聞いた後、すごく実感が湧いてきました。写真もとても心にささりました。地震や津波の危険さを改めて理解できてとてもよかったです。全ての関係機関の方々が、被害を抑えるためにたくさんの取り組みを行っていてすごいと思いました。

○東日本大震災のような被害が南海トラフ地震でも起こると想像すると、とても恐ろしいと感じた。だから、避難訓練に慣れておくことが大切だと思った。「防災＝日常」が理想だと思った。

○よく津波は黒いだとか何が起きているかわからないとかを聞くけど、あまり実感がなかったけど、今回の話を聞いて本当に起こった際はそんな感じなんだろうなと実感しました。しかし、どれだけ辛かったのか苦しかったのかが、完璧にはやはり理解しきれなかったので、理解できるくらいこれからたくさん勉強していきたいと思いました。

○宮本さんのお話は、過去に実際に体験したからか、とても引き込まれた。宮本さんが住んでいた街は小松島市とよく似ているので、参考にできる点が多いと思うので、いろんな人に聞いてほしいなと思った。

<グループ協議の感想>

（関係機関等）

○小学校の先生のグループに参加したが、避難所（避難所＝被災者の生活の場）運営を教職員や市役所職員が行うようなイメージを世間が持っており、そのことへの不安感があるのではと感じた。避難所運営は、避難者自身や地域の自主防災組織の役割であることを、学校と地域の共通認識とすることの必要性を感じた。もちろん、立ち上げの初動期については、学校の教職員にお手伝いいただかないと難しい部分もあるが、教職員には学校の早期再開に注力していただきたいので、立ち上げ後は地域の自主的な運営を期待している。

○この「防災会議」は「顔の見える関係づくり」を目指すとは伺っているのですが、生徒と大人（防災関係機関）相互間の交流なのか、小中学校の教員と防災関係機関との交流を目指すのか、方向性が定まっていない気がします。最終的に、防災教育を通じて生徒一人ひとりの防災意識の高揚であったり、防災教育の充実を目指すのであれば、もう少し多くの生徒を参加させ、教員は後ろで生徒をフォローするなど、生徒主体の防災会議の方がやりやすいと思います。教員と関係機関との連携を目指すなら、学校側が知りたいと思っている内容等を、事前に関係機関側に伝えておいて、質疑応答で進めるのが効率的だと感じま

した。

○時間の関係上、十分な意見交換はできなかったが、災害に対する学校が抱える不安や悩みを直接聞けたことは大変有意義であった。中学生がしっかりと防災に関する自分の意見や疑問をしっかりと発表できており素晴らしかったです。地域によって災害種別によるリスクが異なるため、市全体としての課題を再認識できた。ハード面の防災対応については、返答が難しい。

○顔を合わせて実際にお話しすることで、先生方がどういったことに不安を感じておられるのか、また学校ではどのような実態なのかを知ることができ、非常に有意義でした。時間が足りなくなるほど、疑問や不安がたくさんあったことが印象的でした。

○いざ避難所を設営した場合の防犯対策、避難後の空き家対策と警察としてどう対応すべきか考えさせられました。地域の方が不安に思っていることを話し合うことができ、良い機会だと感じました。

（学校関係）

○なかなか質問する時間がなかった。中学生がしっかりしていたので、今の中学生の意識ももっと聞きたい。

○現場での悩みや不安を話せる場はよかった。警察関係にどのようなことを話せばよいか少し難しかった。自主防災会は地元の声をしっかりきくことが大切なのだとわかった。他校の取組や不安を聞くこともよかった。中学生のはたらきが大事といていたが、具体的にもっと聞きたかった。避難所を開設するとなると地元の中学生在が地元の小学校の避難所でできること、小学生の心構えなども聞きたかった。

○各関係諸機関の南海トラフ地震への対策を直接お伺いできよかったです。勤務校の実態や不安・課題を市危機管理政策課の方に伝えたり、質問したりする機会があったことが大変よかったです。市の方針もよく分かりました。また、他校の対応策や課題も教えていただけたので、これからの本校の防災教育に生かしていきたいと考えています。

○顔が見える協議はよかった。今回を連携をとるきっかけにしたい。

○欲を言えば、時間が短かった。校區別に分けて話し合えばよかったかもしれないと思いました。焦点を合わしたり、話の道筋を決定するまでの時間が少なかった。

○夜間や休日に職員の不在の際の学校（避難場所）での避難対応について議論しました。特に、学校が被災地となった場合、どのように地域と連携していくべきか、また、生徒や教職員の安全をどのように確保するかなど、現実的な課題が浮き彫りになりました。市役所や学校、自主防災会、地域住民と連携する機会を持ち、よりよい対応できるよう具体的に話し合い考えることが大切だと感じました。

○教員の不在時（夜間等）に学校が避難所となることについて、地域の自主防災組織と日頃から情報共有しておくことが必要だと気づかされました。このことは所属校ではまだ対応が不十分だと思います。また、年に数回学校で実施している避難訓練の内容については、さらなる検討や工夫が必要だと思います。地震が起きたらグラウンドに逃げる、というのは適切な避難と言えるのでしょうか。気象条件によってはグラウンドには避難できませんし、液状化のリスクも考慮しなければなりません。さまざまな場面でも避難について、考えて訓練を繰り返していかなければならないと思います。

○消防と警察の方の話は衝撃的でした。人手の少なさや、40分以内に行うべきことが、あまりにも大変そうで…。自助、共助の重要性を痛感しました。グループ協議の形は質問しやすく、回答を頂いた後もさらに深めた話し合いがやりやすかったです。

○小松島には高台が少なく、逃げるのがなかなか難しい状況であると感じた。前もって想定し、どこに逃げるか考えておくことはとても重要だと思った。また、消防や警察がすぐにはなかなか動けない状況になることや、スマホや電気などが使えないかも知れないことなど、震災後のリアルな状況をイメージすることができた。より、自分たちの行動が大事になると感じた。

○各関係機関の方々には、中学生を対象として質問に応じていただいたり、アドバイスをいただきましたが、私たち大人としても役立つものがありました。また、発災時に子どもたちに指示や指導、その後の避難施設の運営などについてのアドバイスをいただきたいと思いました。長く続けることで、多くの生徒や教員も顔の見える関係づくりができる機会があればいいと思います。

○生徒たちも積極的に質問をしたり、意欲的に取り組んでいた。前半の取り組みについて聞いていなかったのも、そこで説明されていたかもしれませんが、各関係機関と中学校の平時・有事の連携できることについてさらに知りたいと思います。

○各関係機関の専門的な知識や過去の経験等を聞かせてもらい、非常に有意義であった。生徒たちも積極的に自分で考えたことを自分の言葉表現していてとても良い経験になったと思う。

(生徒)

○たくさんの方々の話を聞いてとてもよかったです。中学生の質問にも真剣に答えてくれてとてもうれしかったです。これからの準備に役立つ情報などをたくさん知れてよかったです。私がこれから何をすればいいのかもよく分かりました。

○各関係機関の方々から貴重なお話を頂いて、災害時に中学生が担う役割は非常に大きいものだと感じた。最近ならではの、アプリを使った防災というのが心に残った。

○知りたいこと、これからについて役立つことを様々な方々から聞かせていただいて、これ以上ないくらい最高の経験ができました。これからは生かせるよう努力したいです。

○私たちだけではわからないことや、思いつかないことを聞いて、いざと言う時に役立てたいと思った。「質問ありますか？」ですぐに質問が出てこなかったことが悔しかったけど、とても優しく説明してくださったり、とても簡単な質問も丁寧に答えてくださって嬉しかった。

5 第2回防災会議（1月を予定）で話し合いたいこと（会議の方法も含めて）

(関係機関等)

○中学校での防災会議として、地域防災を担う若手の育成の観点から、中学生には自分の住む地域での防災活動に参加するきっかけづくり、地域にはその情報共有といった役割を期待したい。例えば、地元の消防団や自主防災組織での中学生の活動体験や、将来的には運営参加など。

○自主防災連合会としては、意見集約もしていないので特にありません。小松島市の防災

関係者の一人としては、各学校の防災体制、防災計画の内容が地域の方々にほとんど非公開なので、学校側がどのように対応するのかを教えてください。（ＢＣＰ<Business Continuity Plan>…事業継続計画も含めて）災害は、生徒自身が学校に在校中、通学途中、自宅など様々な場面で起こりえます。学校と保護者、地域がうまく連携し、あらゆるフェーズで生徒の安全を確保できるような防災教育、地域連携が求められると思います。保護者の方々にも出席いただき、意見を聞いてみてはどうでしょうか。

○①学校施設を避難場所や避難所として使用する際の課題や悩みの共有 ②災害時における防災関係機関等との連携（関わり方）※グループディスカッション方式での実施

○不安を解消するための方策を話し合う（学校側の不安を機関が補う）。グループ協議では各機関も移動式にして混同させる。

○実際に避難所の設営等、大規模災害を経験した方の体験談を聞いてみたいです。

（学校関係）

○ただお話をするだけでは、もったいないと思う。顔の見える関係と言っても、4月に異動となればリセットされてしまう。将来的に持続可能となるように、可視化できる何かを作り上げていくのがいいのかも。例えば、防災ネットワーク図とか。

○それぞれの校区で課題が違うところもあるので、その校にあわせた対策をじっくり話し合う時間があってもいいのではないのでしょうか。

○それぞれの校区で課題が違うところもあるので、その校にあわせた対策をじっくり話し合う時間があってもいいのではないのでしょうか。

○今回の会議で、学校が地域の自主防災組織と連携しておくことの大切さを改めて学びました。本校もこれから少しずつ取り組んでいきたいと思うので、学校と自主防災組織との連携について勉強したいです。可能であれば、すでに地域の自主防災組織と連携をとりながら色々実践されている学校に、どんな方法でどのようなことをしているのか紹介していただく機会もあればありがたいです。

○関係機関の取組が聞けたことは大変勉強になった。今回、学校の課題を伝えたが、この内容は担当が違うのですが、と言われることがあり、どの機関に話す内容が難しかった。次回関係機関と話すことができるのであれば、聞きたいことや課題を伝える担当の機関が分かり、その機関とじっくり話ができるとありがたいです。

○参加者は、今回の方々になるのでしょうか。各校区で分かれて、現状と今後の活動についてもう少し話し合う時間が、ほしいですね。

○グループ協議に取り上げられたように、夜間や休日など職員が不在の時の学校での被災対応は重要な課題です、次回の会議では、事例を挙げて、具体的な対応策を考えていきたいです。特に職員不在時の初動対応をどのように組織化するか、地域の自主防災会や保護者との連携を強化する方針について話し合いたいです。

○例えば学校に特化して様々な課題について話し合ったり情報共有したりする機会があるといいと思います。避難所の運営、避難訓練、防災教育に関して教員の意識向上など、各校の取り組みを学んで所属校の対応に反映させることができればと思います。

○教室の安全（危険なところとその対策）。いずれ、「県動物愛護協会」のブースも…。

○学生や地域住民への危機意識の持たせ方（情報の共有や周知）。学校として何ができる

か。

○宮本さんの被災体験の続編を聞かせてほしい。避難所としてできること、開設に必要なことなどのアドバイスをもらいたい。具体的なことが思いつきませんが、年2回、子どもたちは毎年変わります。また、各関係機関の取組も、更新されていくので、手間のかからない、長く続けられる運営方法を考えられればいいと思います。

○上にも書きましたが、各関係機関と中学校とで連携できることを知りたいと思います。平時からできること、有事になったときにすることを具体的に知ればと思います。

○各関係機関と学校の連携、協力の方法（訓練等の事前の活動を含めて）について知りたい。

（生徒）

○これからの目標。

○避難所での中学生ができる具体的な役割について。

○今回のグループ協議形式での話し合いがいいです。しかし、今回よりグループワークでの時間を伸ばしてほしいです。私たちだけが質問するのではなく、災害について思っていることなど、様々な関係機関の方々の側から聞きたいです。

○今回の同じ方法で良いと思う。全員がいろんな人に話を聞けたから、災害発生したときに役立つ“ライフハック”についてももう少し詳しく知りたいなと思った